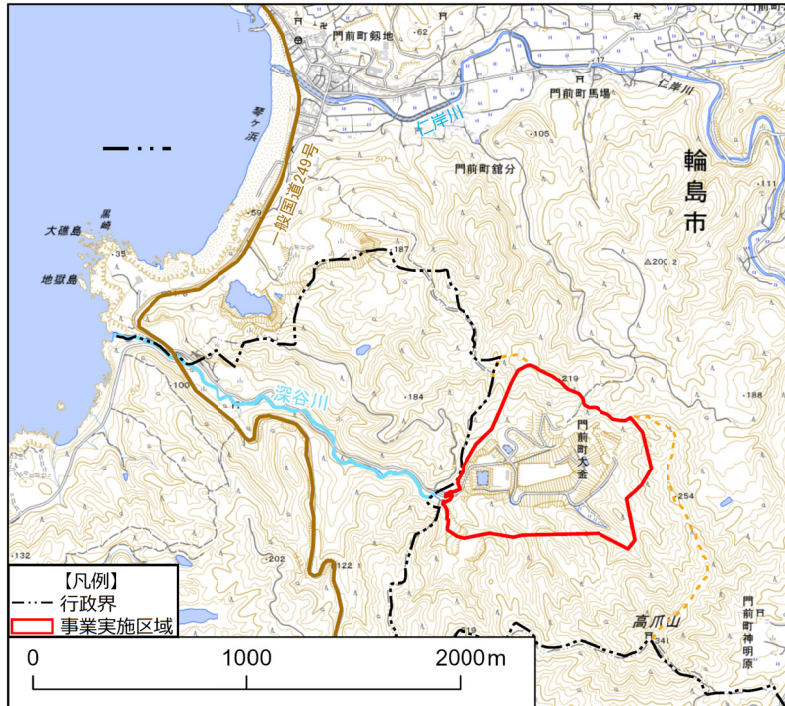


(株)門前クリーンパークの事後調査は、工事前の植物・動物・生態系の状況を把握する「第1期整備工事着工前」、土地の大規模な改変に伴う環境影響を把握する「第1期整備工事期間中」及び廃棄物の埋立による環境影響を把握する「第1期埋立期間中」の3段階で実施しています。

この度、「第1期埋立期間中」（2024年1月～2024年12月）の調査結果について報告書として公表いたします。調査項目は、「大気汚染」「騒音」「振動」「悪臭」「水質汚濁」「地形及び地質」「土壌汚染」「水利用」「樹林地」「雨水排水」「動物」「植物」「生態系」「景観」「野外レクリエーション地」「廃棄物等」「温室効果ガス」及び「その他の項目」です。

本抜粋版は、これらの調査結果のうち、主なものとして「動物」「植物」「生態系」「大気質」「騒音」「振動」「悪臭」「水質汚濁」「廃棄物の埋立量」及び「その他の項目」についてとりまとめました。その他の調査結果については、報告書をご覧ください。

今後も専門家の意見を参考に埋立期間中の影響等のモニタリング及び必要な環境保全措置を講じるなど、引き続き環境に配慮し安全に埋立を実施してまいります。



国土地理院の電子地形図（タイトル）に凡例に示す情報を追記して掲載

【動物】

○希少猛禽類の繁殖状況

- ミ サ ゴ : 対象事業実施区域内での繁殖は確認されず
2023年迄繁殖に利用した巣は本調査前に落巢
- ハ チ ク マ : 対象事業実施区域内で繁殖は確認されず
対象事業実施区域外の深谷林地付近で営巣木を確認したが繁殖の成否は不明
- サ シ バ : 対象事業実施区域内での繁殖は確認されず
- ノ ス リ : 対象事業実施区域内で繁殖を継続、巢内で雛2羽を確認

■環境保全措置の結果

- 令和6年能登半島地震に伴う復旧工事中にノスリが残置森林内で繁殖を継続
- 繁殖期における樹木の伐採等の工事は実施せず、巢内で2羽の雛が確認されたことから影響は最小限に抑えられていると考えられる



ノスリの雛の状況

【植物】

○保全対象種の移植後の生育状況

- 2018年～2019年に移植したカラタチバナ、キセウタ、ササユリ、コケイランは引き続き生育を確認
- シャジクモは旧水田で引き続き生育を確認
- ヤブミョウガのみ確認できずキセウタは2024年9月能登半島豪雨に伴う後背地の斜面崩落に伴い移植地が全て埋没
- ホクリクムヨウランは移植前の2019年に消失したが、改変区域外で本調査も含め2020年以降毎年確認

○改変区域隣接地の重要な種の確認状況

- ホクロクトウヒレン、シラコスゲ、クマノゴケは、2024年も引き続き生育を確認



カラタチバナ



ササユリ



ホクロクトウヒレン

【生態系】

○湿地環境として整備した旧水田及び代償湿地での動植物の生息・生育状況

- アカハライモリ、ニホンアカガエル、トノサマガエル、モリアオガエルを確認
- 2018年以降、モリアオガエルは旧水田で毎年、2024年は代償湿地Aでも卵塊を確認



旧水田の状況



代償湿地A



ニホンアカガエルの成体



モリアオガエル卵塊（代償湿地C）

○フクロウの生息状況調査

- 2018年以降対象事業実施区域外で確認された3ペアが引き続き定着、埋立1年目も2ペアが繁殖に成功



巣箱内で給餌を確認



巣箱の入り口に雛が止まっている様子を確認（写真赤丸）

○深谷川下流の動植物の生息・生育状況

- アユ、カジカ（陸封型）、ミミズハゼ、スミウキゴリ等7種を確認



アユ



スミウキゴリ

【埋立1年目の概況】

令和6年能登半島地震により、門前クリーンパークも開業前の施設に被害を受け、2024年3月から7月にかけて主要施設の修復工事を進めてまいりました。（復旧工事の概要はホームページで公開しています）

復旧工事では、現場の安全確保と機能回復を最優先に、関係機関と連携しながら進めてまいりました。



写真 2024年8月時点

その後、8月からは災害廃棄物の受け入れを開始し、埋立作業も本格化しました。

埋立1年目（2024年）は、1日も早い能登半島の復旧復興に寄与することを最優先に、安全な廃棄物処理、環境保全の両立を目指し、全力で事業を推進しています。

【大気質】

○大気質への影響

- ・復旧工事における工事用機械および運搬車両の稼働実績は、環境影響評価（第1期整備工事ピーク時見込み台数）の25.4%（2,933台）、大気汚染物質排出量は、窒素酸化物が10.1%（3,696.9kg/年）、浮遊粒子状物質が9.6%（167.8kg/年）
- ・埋立工事における工事用機械および運搬車両の稼働実績は、環境影響評価（第1期埋立工事ピーク時見込み台数）の72.8%（9,849台）、大気汚染物質排出量は、窒素酸化物が47.8%（2,500.9kg/年）、浮遊粒子状物質が31.0%（103.5kg/年）

○粉じんの影響

- ・復旧工事期間中における調査結果は、大釜字界東側地点0.8t/km²/月、大釜字界西側地点2.7t/km²/月
- ・第1期埋立中における調査結果は、大釜字界東側地点8.0t/km²/月、大釜字界西側地点0.1t/km²/月
- ・いずれの時期・地点とも環境影響評価書の達成目標値を下回る

【騒音】

- ・復旧工事の時間率騒音レベル（L_{A5}）は、大釜字界西側及び大釜字界東側とも達成目標値（65デシベル）は超過したものの、特定建設作業の規制基準（85デシベル）は下回る
- ・埋立時の時間率騒音レベル（L_{A5}）は、大釜字界西側及び大釜字界東側とも特定建設作業の規制基準（85デシベル）および達成目標値（65デシベル）を下回る

【振動】

- ・復旧工事及び埋立とも時間率振動レベル（L₁₀）は、大釜字界西側地点及び大釜字界東側地点とも特定建設作業の規制基準（75デシベル）および達成目標値（65デシベル）を下回る

【悪臭】

- ・埋立1年目は悪臭を発する廃棄物の搬入がなく、悪臭の発生や達成目標値の超過は確認されず
- ・埋立開始時（8月）及び埋立中（10月）とも、悪臭物質（アンモニア、メチルメルカプタン、硫化水素、トリメチルアミン等）は全て基準値以下または検出限界未満、臭気指数も10未満で達成目標値以下

【水質汚濁】

○浸出水処理施設の稼働状況

- ・浸出水処理は10月から開始し、稼働日数は10月は3日、11月は30日、12月は31日
- ・浸出水調整槽は、施設点検においても異常は確認されず

○深谷川及び仁岸川の水質の状況

- ・埋立1年目の水質調査結果では、両河川とも生活環境項目のうち大腸菌群数（MPN）が一部で環境基準を超過したものの、環境影響評価現況調査時や第1期整備工事期間と比較して低下傾向が確認された。その他の生活環境項目、一般項目、健康項目、ダイオキシン類はいずれも環境基準または水質汚濁防止法の排水基準以下
- ・有害物質は排水基準の10分の1以下、要監視項目は指針値未満であり、放射性物質も検出下限値未満

【廃棄物の埋立量】

- ・廃棄物の受入れは2024年8月に開始
- ・2024年8月～12月に埋立処分された廃棄物は、すべて一般廃棄物（主に令和6年能登半島地震に伴う災害廃棄物）
- ・月間埋立量は、埋立開始の8月（11,640t）から12月（22,232t）と毎月増加傾向

埋立処分実績（2024年） 単位：t

廃棄物の種類	8月	9月	10月	11月	12月
産業廃棄物	0	0	0	0	0
一般廃棄物 （令和6年能登半島地震由来）	11,640	14,190	16,158	20,172	22,113
上記のうち石綿含有廃棄物	0	0	317	181	0
上記のうち廃石綿等	0	0	60	0.4	0.5
上記以外の一般廃棄物	-	-	48	131	119
合計	11,640	14,190	16,206	20,302	22,232

【その他の項目】

- ・埋立1年目の「その他の項目」に関する主な調査は下表のとおりである。
- ・今後も維持管理計画に基づき、継続的なモニタリングと必要な対応を実施する方針

その他の項目の概況（2024年）

項目	調査内容	結果・概要
受入廃棄物	受入廃棄物の抜き取り検査（燃え殻、ばいじん、銻さい、汚泥、政令第13号廃棄物を対象に1種類）を月1回実施	・2024年8月に検査、有害物質の判定基準に適合。 ・9月以降は該当廃棄物の搬入なし
埋立ガス発生量・組成	ガス抜き管4か所で発生量・埋立ガス組成（メタン、一酸化炭素、二酸化炭素、硫化水素、アンモニア、酸素、窒素）の測定	・ガス発生量0mL/10分 ・アンモニアが0.05未満～0.1ppm ・メタン、一酸化炭素、二酸化炭素、硫化水素については定量下限値未満 ・酸素及び窒素の組成はそれぞれおよそ20%、80%程度
埋立地内部温度	ガス抜き管4か所で深さ1mごとに温度測定	26.0～29.8℃で安定、外気温に比べて異常な高温はなし
保有水水位	地下水集排水管ピットで月1回水位測定	全期間、維持管理計画値である「内部貯留していないこと」を満足
大気中アスベスト濃度	代表2地点で年1回測定	両地点とも基準値（10本/L）を下回る0.2本/L未満
周縁地下水水質（定期）	井戸7孔で月1回（5項目）および年1回（全項目）測定	・全ての項目で維持管理計画値を下回る ・地下水環境基準項目は全ての項目で環境基準を下回る ・要監視項目は全マンガン1地点を除いた全ての項目で指針値を下回る（※廃棄物受入れ前）
周縁地下水水質および地下水集排水ピット水質（連続）	井戸2孔（下流側M-2、M-1）および地下水集排水ピットでpH・電気伝導率を連続測定	・pHは、下流側M-2で維持管理計画値（1ヶ月の測定値の変位幅が1以上の変化が確認されないこと）が未達。降雨時に比較的高くなる傾向があるが、その後の水質調査で異常が無いことを確認 ・電気伝導率は、全地点とも維持管理計画値（電気伝導率1桁以上の変化が確認されないこと）を達成
浸出水量・水質（原水）	浸出水量は調整設備で毎日、水質は月1回（BOD等5項目）および年1回（排水基準項目等）測定	・浸出水（原水）の水量は貯留可能量（約3.5万m ³ ）を下回る ・水質は9月測定の水質汚濁物質（SS）に限り、「令和6年奥能登豪雨」の直後に維持管理計画値を上回っていたが、放流開始は10月下旬であり、処理水の計画値超過も見られない
浸出水量・水質（処理水）	水量は放流管路で毎日、水質は月1回（BOD等6項目）および年1回（排水基準項目等全項目）測定	・浸出水（処理水）の水量は放流初日に輪島市との協議により試験的に実施した219m ³ を除き超過なし ・水質は全ての項目で維持管理計画値以下
公共下水道への放流水	最終樹（輪島市公設樹）で月1回（BOD等5項目）および年1回（排水基準項目等全項目）水質測定	全ての項目で維持管理計画値以下
雨水排水	防災調整池下流側で年1回水質測定	全ての項目で維持管理計画値以下
空間線量率（埋立地および搬入車両）	埋立地内および埋立地境界等で月1回測定 搬入車両は全搬入車両が対象	全ての測定で維持管理目標値（0.23μSv/h）以下

【主な環境保全措置の実施状況】



車両の洗浄

覆土仮置場での転圧

造成した法面等の速やかな緑化

沈砂池の土砂除去